

島根県津和野町。そこは島根の西端にある山に囲まれた小さな町。東西南北どこを見渡しても緑、緑、緑。自然豊かで美しい観光資源もある城下町である。

そんな津和野町でぜひお勧めしたいイギリスは「源氏巻」だ。この銘菓は町内の和菓子屋のどの店にも必ず置いてある定番商品で全津和野町民熱愛の一品だ。

源氏巻はあんをきつね色の薄いしつとりとしたカステラ生地で巻いた和菓子で見た目も味もシンプルそのものだが、そこがおいしい。シンプルであるけれど淡泊ではない。一口食べればこの町に縁が無くともどこか懐かしいうような気持ちになる。

今、日本は少子高齢化がどんどん進行しつつある。津和野も例外ではなく、若者は減りつつある。そんな中受け継がれてきた伝統文化、味も消え去り、さら寂しい。人はいつか世代交代するけれど味は残る。源氏巻には「ず」と昔から受け継がれてきた歴史が

ある。食べてきた人々の思いがある。だから色々な人に手に取ってほしい。食べないといわれない軌跡がある。この島根の片隅に。津和野町は山の中ではあるが色彩やかな観光資源があり魅力あふれる町である。歩いていてふと目をあげると、赤い鳥居の列。太鼓谷稲成神社。視界抜群。町を見渡せる城跡。津和野には素敵なスポットが数々ある。そんな観光のお供に源氏巻を頂くのもまたよい。足と目と舌でこの地を感じる事ができる。

私が通学途中に目と引かれたのは「源氏巻アイス」である。このようなものまで出していたとは驚きである。最近抹茶味など新しい味もある。時代を越えて受け継がれてきた味か。今また様々な工夫を加えられ時代を越えていく。「源氏巻」はまだまだ進化し続けるのだ。

山陰の小京都、津和野。この地でシンプルかつ奥深い歴史を体験してみてもいいだろう。「源氏巻」を味わいながら。